

「ガルパン」を楽しむための
ホームシアター/サラウンド構築ガイド

特別付録
描き下ろし
“ディスク拭き”

5.1ch再生道、極めます!

ガールズ & パンツァー

GIRLS und PANZER

月刊HiVi特別編集



別冊ステレオサウンド
2019年6月26日(発行・発売)



Audio Heart VRS-2

	VRS-1	VRS-2
価格	¥980,000+税	¥680,000+税
スピーカー数	14(11.2ch)	10(7.2ch)
ヘッドレスト	○	—
カップトレイ	○	—
高さ調整リング	○	—
寸法	W995×H1,340×D1,080mm	
質量	93kg	90kg

●問合せ先：オーディオハート(株) ☎04(7193)2608

「VRS」シリーズは、VRS-1とVRS-2の2機種がラインナップされる。両機種のもっとも大きな違いはサラウンドスピーカーの数（VRS-1が8個、VRS-2が4個）。どちらのモデルも、センターchは左右に振り分けられたふたつのスピーカーで再生する。VRS-1の場合、フロントが2、センターが2、サラウンドが8、サブウーファーが2で合計14スピーカーということ。サブウーファー用のアンプを内蔵していないため、これらを鳴らすには一般的なAVセンターに加えて2ch分のパワーアンプが必要という点にも注意したい。

また、購入後にVRS-2をVRS-1へグレードアップすることもできる。実機の体験は、東京のONKYO BASE、大阪のホームシアター工房で可能。さらに大手量販店のエディオンやビックカメラなどでの展示も予定されている。

鳥居一豊

理想的と言える「シアターチェア」

『ガルパン』のような迫力たっぷりの音が詰まった作品を存分に楽しみたいと思う人は多いだろう。しかし、一般家庭で映画館のような大音量再生を行なうと、近隣への迷惑になりがちだ。防音工事はコストが膨大だし、賃貸物件では大がかりな工事自体が難しい。

一般家庭で大音量を楽しめるシアター空間が欲しい。そんな声に応えるのがオーディオハートのVRS-2。卵形のシェルを持った本体上部空間に、7.2ch分のスピーカーが内蔵されている“シアターチェア”だ。実際に見てみると思った以上に厚みのあるシェルは防音構造になっており、シェルの中に身を置くと周囲の音がスッと消える。シアター用チェアとしての座り心地も良好。側面や後方が遮蔽されることもあって、専用個室に入ったような感覚になるのだ。

さっそく『最終章』第1話を視聴すると、決して広いとは言えないシェルの中で雄大なスケールの戦車戦が展開した。センターchは左右1組のスピーカーによるファントム再生だが、実体感のあるクリアな定位だ。初期の試作機からネットワーク設計を変更し、定位感とチャンネルのつながりを改善したという改善の効果だろう。

音量を映画館並みと感じるほど大きくして聴いてみたが、サブウーファーの低音はかなり力強く、迫力は充分。シェル自体がわずかに共振するが、その振動が伝わる感触も戦車内にいるようで好ましくさえ感じる。もちろん、共振による不要な音の濁りはほとんど感じない。

これは一般スピーカーによるのであれば、とても通常の家で許されない音量のはずだ。試しにそのまま席を立ててVRS-2から外に出ると、テレビでふだん再生している音よりもちょっと大きめの音量にしか聴こえない。VRS-2のそばで普通に会話ができてしまうくらいだ。この遮音効果はかなりのレベル。専用に設計されたアルミ振動板のスピーカーやサブウーファーの質の高い音質に加え、しっかりとした遮音性と、シェル内の自然な音響特性が実現されていることにいたく感心した。

価格はVRS-2で¥680,000、ドルビーアトモスの7.2.4再生対応のVRS-1で¥980,000と決して安価ではない。しかし、防音工事やスピーカー設置のスペース確保も不要で、賃貸物件でも導入できるシアタースピーカー+シアター空間と考えれば、逆にお手頃だとさえ思える。個人用としては理想的なホームシアターだ。

VRS-2の適度な遮音性は、映画や音楽鑑賞はもちろん



↑かなりの大きさ、重さだが、本体は上下と脚部に分解できる。一般的な家屋であれば搬入／搬出には困らないはずだ

のこと、ゲームなどにも好適。デスクトップPCと組み合わせれば、さまざまな作業にも集中できそう。趣味のための専用の空間が欲しいという人にもおすすめしたい。